

**製品名: INSL4 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12625**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	19kDa

**抗原情報**

遺伝子名	INSL4
別名	INSL4; Early placenta insulin-like peptide; EPIL; Insulin-like peptide 4; Placentin
遺伝子 ID	3641.0
SwissProt ID	Q14641
免疫原	抗血清はヒト INSL4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 41-90

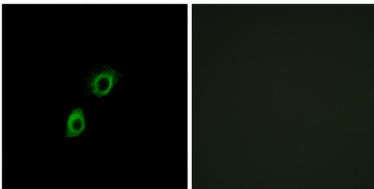
**背景**

INSL4 は、インスリンスーパーファミリーに属するインスリン様タンパク質 4 をコードします。INSL4 は、翻訳後切断を受けて 3 つのポリペプチド鎖 (A~C) を生成する前駆体をコードします。これらのポリペプチド鎖は、3 つの鎖すべて、または A 鎖と B 鎖のみ

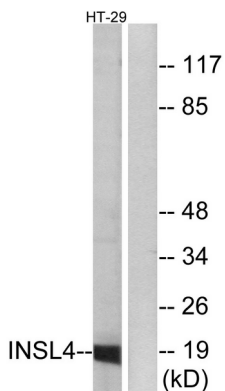
からなる三次構造を形成します。INSL4産物の発現は、胎盤前期の細胞栄養芽層および合胞体栄養芽層で起こります。[RefSeq 提供、2008年7月]、発生段階：胎盤前期で高い発現を示します。絨毛細胞栄養芽層におけるエピルペプチドの発現は、合胞体栄養芽層で示される発現とは異なります。胎児組織では、四肢、椎骨、肋骨の軟骨膜で確認されました。骨間靭帯に豊富に存在した。機能：栄養膜細胞の発達および骨形成の調節において重要な役割を果たす可能性がある。類似性：インスリンファミリーに属する。組織特異性：胎盤、子宮、胎児軟骨膜で発現する。発現レベルは胎盤早期および胎状奇胎妊娠の両方で上昇し、絨毛癌細胞では低下した。

## 研究分野

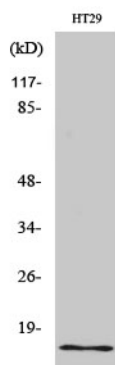
## 画像データ



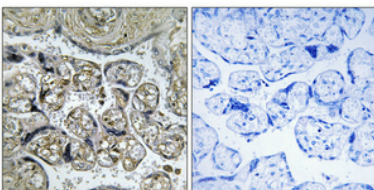
INSL4抗体を用いたA549細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



INSL4抗体を用いたHT-29細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



INSL4ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学染色。抗体は1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。